

質問

抗がん剤治療をしています。髪が抜けたり、爪・皮膚が黒くなったり、見た目がとても気になります。どこか相談できるところはありませんか？

# 抗がん剤治療の副作用



一宮 由貴  
徳島大学病院  
がん看護専門看護師

回答 抗がん剤治療の副作用

用による見た目の変化にお悩みとのこと、こらい思いをされていることと思います。

がんの治療をしながら日常生活を送る患者さんが増えています。一方で手術や抗がん剤、放射線などの治療を行うと傷跡、脱毛、皮膚や爪の変化など、患者さんの身体にさまざまな変化がもたらされ、人間関係や就労、就学への影響を懸念して社会活動への参加を諦めたり、生活スタイルの変更を余儀なくされたりする患者さんが多いのも事実です。治療を継続しながら仕事に復帰する場合も、外見の変化が大きなストレスになること

## 外見の変化 病院に相談



があります。

以前はがんを治すことばかりに関心が向けられ、医療機関も患者さんのつらさに十分な対応ができていませんでした。しかし、最近では患者さんがどのように生活するか、「Quality of Life (生活の質)」が重要視されるようになり、患者さんの外見の変化による苦痛にも目が向けられるようになってきました。特に外見の変化に対する支援を「アピランス支援」といいます。

インターネットや広告などでも、さまざまな製品やケアの方法などの情報が発信されていますが、その全てが安全で正

しい情報とは限らないのが現状です。そこで、患者さんが多くの情報に翻弄されたり、間違った情報でさらにつらい思いをされたりすることがないように、アピランス支援を積極的に行う病院が増えてきました。

徳島大病院でも患者支援センターでのがん相談、緩和ケアセンターでの個別対応や図書貸し出し、各診療科でのパンフレットの提供を行っています。乳がんの患者さんを対象に月1回開く「医療用ウィッグ、ビューティー無料試着相談会」では、企業に協力をいただき、医療用かつ爪、爪や皮膚の色をカバーするマニキュア、化粧品などを紹介しています。乳がん術後補整下着の紹介や試着、メンテナンスに関する相談も受け付けています。

また治療に伴う症状や心配事に対しても幅広く対応できる体制を整えています。医師、看護師、緩和

和ケアチーム、メディカルソーシャルワーカー、臨床心理士などのスタッフが、チームで連携して皆さんの悩みに寄り添います。さらに、がん看護専門看護師をはじめ専門性の高いスタッフが対応しますので、より治療に密着した個別性のある対応が可能になりました。

外見は社会との接点になります。身近にあるものを工夫して活用することで、外見上の変化をカバーできたり、治療前と変わりなくおしゃれを楽しんだりすることもできます。治療を継続しながら自分らしい生活が送れることを知っていただき、安心して治療に臨んでいただきたいと思えます。「仕方がない」と諦めてしまわず、まずは医療機関のスタッフに声を掛けてください。

(第4土曜掲載)

がんに関する質問は徳島がん対策センターへ電話088(634)6442(平日午前8時半から午後5時まで)にお寄せください。詳しくはセンターのホームページへ<http://www.toku-gantaisaku.jp>をご覧ください。

## 医療用美容品など紹介